

## 2019年度 事業報告書

財団創設者 安藤百福の「食とスポーツは健康を支える両輪である」という理念のもと、子どもたちの健全な心身の育成と、食文化の発展に貢献する公益事業を実施しました。

その概要につきまして、以下のとおりご報告いたします。

### <公益目的事業>

- (1) 公1. 陸上競技支援事業
- (2) 公2. 自然体験活動支援事業
- (3) 公3. 食文化振興事業
- (4) 公4. 発明記念館運営事業

### <収益事業等>

- (1) 収1. 施設賃貸および物販等の業務受託

### <公益目的事業>

#### ■公1. 陸上競技支援事業

「未来ある子どもたちにあらゆるスポーツの基本である正しい走法を学ばせたい」という日本陸上競技連盟の考えに賛同し、走る楽しさ、仲間とふれあう喜びを広めることを目的に、全国の小学生を対象とする陸上競技大会を支援しています。

#### 1. 小学生陸上競技大会等の後援事業

##### (1) 「第35回全国小学生陸上競技交流大会」の事業後援

子どもたちにあらゆるスポーツの基本である正しい走法を学ばせること、スポーツを通じた友情を育んでもらうことを目的に、全国の小学5、6年生を対象に、47都道府県で開催される選考会と、決勝大会を後援しました。

本大会は、1985年に「第1回全国少年少女リレー競走大会」としてスタートし、毎年約15万人の選手、指導者が参加しています。これまで出場した子どもたちの中から、1996年のアトランタ大会以降、6大会連続で延べ25名のオリンピックの代表選手が誕生しました。

小学生アスリートとともに歩み、いまや子どもたちにとって目標となる大会として定着しており、日本陸上競技界の底辺の拡大に大きく寄与していると高く評価されています。

【主催・後援】 主催：公益財団法人 日本陸上競技連盟 後援：スポーツ庁 他

【実施日】 ① 選考会 2019年6月～7月  
② 決勝大会 2019年8月9日(金)～10日(土)

【場所】 ① 選考会 47都道府県の陸上競技場  
② 決勝大会 横浜・日産スタジアム

【参加者数】 約150,000人(選手、指導者、関係者)

【大会内容】 47都道府県の選考会において、選手に入賞メダルや参加賞を贈呈。  
決勝大会では、陸上競技の「走・跳・投」の3要素である100m走、コンバインドA(80mハードル+走高跳)、コンバインドB(走幅跳+ジャベリックボール投)、男女混合4×100mリレーなどが実施され、その模様はNHK教

育テレビ（Eテレ）にて全国放送されました。

今大会から2種目の合計点を競うコンバインド種目（A、B）、男女混合リレーを導入しました。発育・発達時期における過度な練習、成績至上主義に陥ることがないように、指導者の育成を進めるとともに、子どもたちの意欲、才能を開花させる施策に取り組みました。

【事業費】 106,330,862円

## （2）「第22回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会」の事業後援

発育途上の子どもたちが、身体に負担をかけない正しい長距離走を理解し、走法、呼吸法やトレーニング方法などを学ぶことを目的に、全国の小学5、6年生を対象とし、47都道府県の代表チームと、開催地大阪から推薦された3チームを加えた計50チームが参加するクロスカントリーリレー大会と、前日に開催された研修会を後援しました。

2012年開催のロンドンオリンピック代表の佐藤悠基選手や、2016年開催のリオデジャネイロオリンピック代表で、東京オリンピック女子マラソン代表に内定した鈴木亜由子選手は、1999年からスタートした本大会の出場経験者です。

この第22回を最後に、本大会は2020年度より全国小学生陸上競技交流大会と統合します。陸上競技の基礎技術の習得を軸とし、小学生アスリートの交流を深める大会としてさらに充実させてまいります。

【主催・後援】 主催：公益財団法人日本陸上競技連盟 後援：スポーツ庁 他

【実施日】 2019年12月7日（土）～8日（日）

【場所】 池田市民文化会館（大阪府池田市）、万博記念公園内特設コース（大阪府吹田市）

【参加者数】 892人（一般タイムトライアル参加者も含む）

【研修内容】 ゲスト：寺田 明日香 選手 ママアスリート、2019年ドーハ世界選手権代表  
2016年には女子ラグビーに挑戦

- ・ジュニア期に複数のスポーツを行う重要性について
- ・食事や栄養の基本について

【大会内容】 ・クロスカントリーリレー（1区間1.5km×6区間 男女交互のリレー）  
・友好タイムトライアル、一般参加タイムトライアル

【事業費】 18,290,548円

## 2. 少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」表彰

子どもたちの健全な心身の育成には優れた指導者の存在が不可欠であるとの考えから、小学生の指導者を顕彰する少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」を、47都道府県から選出された指導者47名に贈呈し、今後の一層の活躍を期待して表彰しました。

【実施日】 2019年8月10日（土）

【事業費】 第35回全国小学生陸上競技交流大会事業費に含む

## 3. 「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」支援事業

当財団と公益財団法人日本陸上競技連盟は、若手アスリートの海外挑戦、武者修行を支援する「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」を、2015年9月にスタートしました。

本プロジェクトでは、世界のトップ選手が集う環境の下、大きな刺激を受けながら互いに切磋琢磨し、海外のメダリストを育てたコーチに教えを乞い、最新鋭の設備の中で、練習に励みます。

海外での貴重な経験が、トップアスリートとして求められる資質を身につけ、オリンピックでのメダル獲得へつながると期待しています。

2017年9月、男子100m走において日本人初の9秒台となる9秒98の日本新記録を樹立した桐生祥秀選手も、2016年春・夏に本プロジェクトに参加しました。

**【支援内容】**

オリンピックなど国際大会でメダル獲得を志す満16歳以上の実業団に属していない個人を対象とし、学校の長期休暇等を活用した海外合宿、遠征において、旅費、遠征費、コーチフィー等を助成します。

**【2019年度支援対象者】 9名**

● 2019年7月～2020年3月

(年齢は活動開始時)

氏名	年齢	種目	活動期間	日数	活動拠点
北口 榛花 (日本大学)	21 女	やり投	7月15日～9月25日 1月30日～3月15日	119	チェコ
高松智美ムセンビ (名城大学)	19 女	長距離	8月3日～9月3日	32	アメリカ
江島 雅紀 (日本大学)	20 男	棒高跳	11月1日～11月23日	23	アメリカ
橋岡 優輝 (日本大学)	20 男	走幅跳	11月1日～11月23日	23	アメリカ
飯澤 千翔 (東海大学)	18 男	中距離	1月25日～3月2日	38	アメリカ
山下 潤 (筑波大学)	22 男	短距離	2月2日～2月23日	22	アメリカ
出口 晴翔 (東福岡高校)	18 男	短距離 障害	1月14日～2月20日	38	アメリカ
塚本ジャスティン惇平 (東洋大学)	18 男	短距離	2月1日～2月24日	24	アメリカ
伊藤 明子 (筑波大学大学院)	24 女	短距離 障害	2月20日～3月19日	29	オーストラリア

**【事業費】 10,989,700円**

4. スポーツ全般におけるジュニアアスリート育成の後援事業

本事業は、青少年の健全な心身の育成を図るという目的のもと、公益財団法人日本オリンピック委員会に加盟する各競技団体を対象とし、全国的な組織またはそれに準ずる団体の活動を通じて、ジュニアアスリート育成を支援します。

2019年度も引き続き、公益財団法人日本テニス協会が主催する男子ジュニア育成プログラムを後援しました。国内開催の国際大会や、全国大会をはじめとする主要な大会から成績優秀者を選抜して行うナショナルジュニアキャンプ、トップジュニアキャンプ、海外遠征等を支援し、子どもたちが夢を実現する活動を応援します。数々の一流プレーヤーを育てたボブ・ブレット氏をコーチに招き、子どもたちを熱く指導しました。

**【参加者数】**

- ・ナショナルジュニアキャンプ 選手・指導者 227名 (年22回開催)
- ・トップジュニアキャンプ 選手・指導者 79名 (年3回開催)
- ・海外遠征・合宿 選手・指導者 79名 (年16回実施)

**【事業費】 32,400,000円**

## ■公2. 自然体験活動支援事業

「自然とのふれあいが子どもたちの創造力を豊かにする」という安藤百福の考えのもと、財団設立以来、青少年の健全な心身の育成を目的に、子どもたちの「協調性」や「自活力」を育む自然体験活動の更なる普及と活性化に取り組んできました。

2010年5月、長野県小諸市に設立した「安藤百福記念 自然体験活動指導者養成センター（略称：安藤百福センター）」を拠点に、子どもたちの自然体験活動を推進するための人材育成、指導者の養成を行い、アウトドア活動の普及を図りました。

### 1. 「第18回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」の実施

「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」では、自然体験活動の企画案を公募し、応募総数214件の中から、ユニークで創造性に富んだ企画を立案した50団体を選考し、実施支援金として各10万円を助成しました。

更に、助成した団体から提出された活動報告書を審査し、学校部門には文部科学大臣賞と優秀賞を、一般部門には安藤百福賞と優秀賞を選考し表彰しました。表彰式において、受賞団体のユニークな活動を発表し、他団体に参考してもらうことで、自然体験活動の活性化を図っています。なお、本年度助成した団体の活動には、延べ約10,600人の子どもたちが参加しています。

【後援】文部科学省、横浜市、横浜市教育委員会

【表彰団体】

[学校部門]

◆文部科学大臣賞（副賞：100万円）

団体名：越前市立味真野小学校（福井県）

企画名：やっぱAjimano おもしReiwa！

「鞍谷の7ふしぎ」50年ぶりに復活させるぞ!!

◆優秀賞（副賞：50万円）

団体名：南アルプス市立芦安中学校（山梨県）

（委託：特定非営利活動法人芦安ファンクラブ）

企画名：五感で感じる体験－南アルプス「鳳凰三山」への全校登山

及び自然環境・森林保護活動等の支援

[一般部門]

◆安藤百福賞（副賞：100万円）

団体名：NPO法人海の森・山の森事務局（神奈川県）

企画名：子どもたちと取り組む未来へのゼロ・マイクロプラスチック大作戦！

◆優秀賞（副賞：50万円）

団体名：独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大雪青少年交流の家（北海道）

企画名：令和元年度「災害サバイバルキャンプ」

◆推奨モデル特別賞（学校・一般部門共通）（副賞：30万円）

プランニングや指導の方法、計画を実施に移す過程などが、多くの学校や団体の参考モデルになると認められた企画に贈呈しました。

① 団体名：尾鷲市立宮之上小学校（三重県）

企画名：僕らのあそび場づくり ～山育・木育・おわせ行く～

② 団体名：特定非営利活動法人霧多布湿原ナショナルトラスト（北海道）

企画名：きりたっぷ子ども自然クラブ

◆ トム・ソーヤー奨励賞（学校・一般部門共通）（副賞：各 20 万円）

企画内容がユニークで他団体への刺激や参考となり、更なる飛躍が期待できる企画に贈呈しました。

① 団体名：横浜市立大岡小学校（神奈川県）

企画名：こちら横浜やきもの研究所！～伝統と環境を未来につなごう～

② 団体名：特定非営利活動法人暮らし・つながる森里川海（神奈川県）

企画名：子どもが元気、いきもの元気、地域が元気

「湘南いきもの楽校水ガキ養成講座」

◆ 努力賞（副賞：各 10 万円）

[学校部門]

① 団体名：横浜市立下野庭小学校（神奈川県）

企画名：命あふれる自然館大作戦！～よこはまメダカを守りタイ！～

② 団体名：浜松市立三方原小学校 3 年生（静岡県）

企画名：「大地に輝く子」育成プロジェクト

～先人から引き継ぐ「やらまいか」精神を育てる！～

③ 団体名：京都市立大淀中学校 家庭科部（京都府）

企画名：徹底追跡！！この種はどこにいくのだろう？

～一粒の種と共に体験し、考える世界～

[一般部門]

① 団体名：小笠原扇浦青年団「要会」キッズカヌークラブ（東京都）

企画名：小笠原キッズカヌークラブ

② 団体名：狛江水辺の楽校（東京都）

企画名：多摩川ガサガサたんけん隊

③ 団体名：福井県山岳連盟（福井県）

企画名：ふくい冒険満喫！レッツ！チャレンジ・クライミング

【表彰式】開催日：2020年1月25日(土) 安藤百福発明記念館 横浜 5階ホール

来賓：平川 康弘 氏（文部科学省 総合教育政策局 地域学習推進課  
青少年教育室 室長）

齋藤 聖 氏（横浜市 こども青少年局長）

講演会：「海外の山を登り続けて」

貫田 宗男 氏（登山家）

【事業費】16,000,647 円

## 2. 安藤百福センター事業

安藤百福センターを拠点に、子どもたちの自然体験活動を推進するための人材育成や、自然体験活動を推進するさまざまな事業を通して、日本における自然体験活動の中心的な役割を果たし、アウトドア活動の普及、推進に努めました。

近年、ロングトレイルの全国的な拡がりや、8月11日国民の祝日「山の日」施行など、自然体験活動に対する関心の高まりから、NPO 法人日本ロングトレイル協会や、一般財団法人全国山の日協議会と連携し、全国的なロングトレイルや山歩きの普及、振興や安全対策事業の推進などの支援を行い、自然体験活動の更なる振興、活性化を図りました。

## (1) 自然体験活動振興事業

子どもたちを身近な自然に案内する指導者の養成や、自然体験への興味を喚起する講座、セミナー等を実施しました。

### 【2019年度 主な事業】

#### ① 指導者養成のための研修会、講座、シンポジウム等の開催

公益社団法人日本山岳ガイド協会が主催する自然ガイドのための危急時対応技術講習会など安全管理に関する研修会、および公益社団法人日本山岳会が主催する登山教室指導者養成講習会を共催しました。

また、NPO 法人自然体験活動推進協議会の加盟団体をはじめ、全国のアウトドア活動 47 団体が安藤百福センターを利用して、各種研修会を実施しました。

#### ② 自然体験活動への興味を喚起し、自然体験活動を活性化する施策の実施

安藤百福センターの森では、自然体験に興味がない人でも「アート」をきっかけに豊かな自然に触れ合うことを目的とした小諸ツリーハウスプロジェクトを推進しています。著名なデザイナーや建築家がデザインした既存の枠にとらわれない自由な発想で創り出されたツリーハウスを7棟展示しています。

11月には、「信州冒険ものがたり～安藤百福センターで出来る30の冒険～」をテーマに、火おこし、ナイフワーク、木登りや岩登り、弓矢や石器づくりなど、冒険的で楽しい30のワークショップを体験できるほか、地元の旬の味覚を味わえる飲食ブース、野外音楽ライブなど自然の中で「アート・アウトドア・食」が満喫できるイベントを開催しました。

##### ・小諸ツリーハウスプロジェクト

「信州冒険ものがたり～安藤百福センターで出来る30の冒険～」

開催日：2019年11月3日(日)

参加者：約2,000名

共催：abn 長野朝日放送「地球を守ろう！プロジェクト」

その他、自然を楽しむ講座や体験、安藤百福センターの屋外研修フィールドである浅間・八ヶ岳パノラマトレイルにおいて季節に応じたトレッキング講座等を主催しました。

##### ・大人のトレイル歩き旅講座

##### ・「みんなでダイヤモンド浅間を見に行こう！」

##### ・こどもクライミング教室

## (2) ロングトレイルの普及と安全対策事業への支援

子どもたちの自然体験の主な活動場所は、山、川、海や身近な森林、キャンプ場が中心であり、どのフィールドでも「歩くこと」が基本となります。当財団は、NPO 法人日本ロングトレイル協会、一般財団法人全国山の日協議会と連携し、ロングトレイルの普及・振興のための事業を支援し、「歩く文化」の醸成を図り、子どもたちが安心して自然体験が楽しめるよう安全対策事業を支援しました。

### 【2019年度 主な事業】

#### ① ロングトレイルの普及・振興活動

- ・日本列島を南から北まで一本道でつなぐ「JAPAN TRAIL プロジェクト」の支援
- ・全国のトレイル運営機関、諸団体への情報提供と交流促進、普及・振興提案

- ・全国のトレイルに関する広報活動およびトレイルを活用した観光促進
- ・トレイルを活用した青少年健全育成や生涯スポーツ促進

②「第7回ロングトレイルシンポジウム」の共催

2月22日にシンポジウムを開催する予定も、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、開催を中止いたしました。

後援：環境省、観光庁、長野県、小諸市、一般財団法人全国山の日協議会 他

③ その他主催・共催事業

10月12日に東日本を襲った台風19号の災害の影響や、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、中止とした主催、共催事業がありました。

- ・ロングトレイルハイカー入門講座

【事業費】123,681,007円（2. 安藤百福センター事業）

3. 自然体験活動支援ホームページ「自然体験.com」の運営

自然体験活動に関する情報や専門家によるノウハウを掲載しているホームページ「自然体験.com」は、学校完全週5日制が施行された2002年にスタートしました。当財団では、「自然体験.com」を通じて、保護者や指導に携わる方々へ自然体験活動に関する情報を提供し、子どもたちの「創造力」や「自活力」を育む自然体験活動の輪を広げる事業を行なっています。

また、「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」の募集や、支援団体の活動状況を伝える速報レポート、活動報告書も掲載しています。

【URL】 <http://www.shizen-taiken.com>

【事業費】 7,503,735円

## ■公3. 食文化振興事業

食創会は、1996年、「食創為世（食を創り世のためにつくす）」という安藤百福の理念に基づき、食品の基礎科学の研究奨励ならびに独創的・革新的な食品の生産加工技術の開発に対する支援・普及を通じて、世界の食文化の向上・発展に寄与することを目的に「食創会」が創設されました。当財団では、「食創会」を主宰し、毎年「安藤百福賞」の表彰を行っています。

1. 食創会「第24回安藤百福賞」表彰事業

「安藤百福賞」は、安藤百福がインスタントラーメンを発明し新しい食文化を創造したように、食科学の振興並びに新しい食品の開発に貢献する研究者、開発者及びベンチャー起業家を表彰するものです。大賞や優秀賞のほか、発明発見奨励賞は、大学等に所属する若手研究者や中小企業の開発者を表彰対象としています。

2016年度より、小泉純一郎 元内閣総理大臣を食創会会長に迎え、食文化の向上に貢献する事業の更なる活性化を図っています。

【後援】 農林水産省、文部科学省

## 【表彰者】

### ● 大賞（副賞：1,000万円）

末松 誠 氏（慶應義塾大学 医学部 客員教授）

「ガスバイオロジーの開拓による医学・食品科学への展開」

### ● 優秀賞（副賞：各200万円）

・ 稲垣 暢也 氏（京都大学大学院 医学研究科 教授）

「消化管ホルモンを介した高脂肪食による肥満誘導メカニズムの解明」

・ 松井 利郎 氏（九州大学大学院 農学研究院 教授）

「ジペプチドの健康維持機能に関する研究」

・ 森 有一 氏（メビオール株式会社 代表取締役会長）

「農業技術（アイメック®）の開発とベンチャー起業による世界展開」

### ● 発明発見奨励賞（副賞：100万円）

岩崎 有作 氏（京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授）

「ゼロカロリー甘味料D-アルロースの満腹感誘導、肥満・糖尿病改善作用の発見」

## 【表彰式・記念講演会】

3月12日に表彰式・記念講演会を開催する予定も、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、開催を中止しました。

【事業費】 38,420,001円

## ■公4. 発明記念館運営事業

「人間にとって一番大事なのは創造力であり、発明・発見こそが歴史を動かす」という安藤百福の考えに基づき、世界の食文化を変えたインスタントラーメンの誕生から、産業として世界に発展していった歴史を通じて、未来を担う子どもたちに発明・発見の大切さを伝え、「ベンチャーマインド」や「創造的思考＝“クリエイティブシンキング”」を育み、青少年の健全な心身の育成に寄与しています。

### 1. 安藤百福発明記念館 大阪池田（池田記念館）の運営

2019年度の来館者は、インバウンドによる来館者増のほか、総合学習や修学旅行など学校教育の場としての利用があり、前年度実績を上回る来館者をお迎えしていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、来館者およびスタッフの健康と安全を考慮し、2月29日より臨時休館としたため、89万人の来館者にとどまりました。

学校教育による来館は760校、38,600人です。

【施設概要】 所在地：大阪府池田市満寿美町8番25号

敷地面積：4,477㎡

延床面積：3,423㎡

【来館者数】 2019年度来館者数 892,000人（累計来館者数 9,959,000人）

【体験者数】 チキンラーメンファクトリー 51,000人

マイカップヌードルファクトリー 580,000食

【事業費】 162,735,212円

### 2. 安藤百福発明記念館 横浜（横浜記念館）の運営

横浜記念館は、「創造的思考＝“クリエイティブシンキング”」をコンセプトに、安藤百福の言



葉や思考、行動の本質を、現代アートの手法で表現し、世界に通じる新しい食文化や産業を生み出す原動力となった安藤百福の自由な発想や創造的な考え方を体験、体感できるミュージアムです。発明・発見の楽しさ、食の大切さ、夢をもって自分で考える楽しさ、あきらめずに何かに取り組む大切さなどを子どもたちに伝えています。

2019年度の来館者は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、来館者およびスタッフの健康と安全を考慮し、2月29日より臨時休館としたため、100万人の来館者にとどまりました。学校教育による来館は1,600校、72,600人です。

【施設概要】 所在地：横浜市中区新港2丁目3番4号

敷地面積：4,000 m<sup>2</sup>

延床面積：9,883 m<sup>2</sup>

【来館者数】 2019年度来館者数 1,000,000人（累計来館者数 8,982,000人）

【体験者数】 チキンラーメンファクトリー 84,000人

マイカップヌードルファクトリー 726,000食

カップヌードルパーク 88,000人

ワールド麺ロード 381,000食

【事業費】 512,018,127円

#### <収益事業等>

##### ■施設賃貸および物販の業務受託

当財団が所有する発明記念館（池田記念館、横浜記念館）の一部を、物販コーナーとして賃貸しました。なお、これまで、池田記念館では物販業務を受託していましたが、業務の見直しに伴い、2018年10月より業務受託を一時休止しました。

【賃貸面積】 ① 池田記念館 324 m<sup>2</sup>（館全体の延床面積に占める割合：約9%）

② 横浜記念館 115 m<sup>2</sup>（館全体の延床面積に占める割合：約1%）

【事業費】 12,313,946円

以上